

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 3 部門第 3 区分
 【発行日】平成20年10月16日 (2008.10.16)

【公開番号】特開2007-270108(P2007-270108A)
 【公開日】平成19年10月18日 (2007.10.18)
 【年通号数】公開・登録公報2007-040
 【出願番号】特願2006-101235(P2006-101235)
 【国際特許分類】

C 1 0 L 1/08 (2006.01)

【F I】

C 1 0 L 1/08

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月1日 (2008.9.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 9 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 9 4】

(実施例 1 ~ 3 および比較例 1 ~ 3)

表 1 に示す性状を有する基材を調合して表 2 に示す軽油組成物を調製した(実施例 1 ~ 3 および比較例 1 ~ 3)。F T 合成基材 1 ~ 3 は天然ガスを F T 反応によりワックス及び中間留分化し、これに水素化処理を施して得られた炭化水素混合物であるが、それぞれの反応条件(異性化度)は異なるため、飽和炭化水素含有率が異なる基材となっている。高度水素化処理基材は軽油基材に更に水素化処理を施し、更なる低硫黄化と低芳香族化をはかった炭化水素基材である。動植物由来の処理油はパーム油(ホール成分)を原料として水素化処理を行い、雑成分を取り除いたものである。水素化精製軽油は冬季に使用されている市販の軽油に相当する。低圧縮比用燃料は F T 合成基材、水素化精製基材、高度な水素化処理基材等を適切量配合して、低圧縮比ディーゼルエンジン向けに配合したものである。従って、各留分の混合比率及び各留分のセタン価を除けば、他の仕様は本発明の軽油組成物に必要とされる項目を満足している。これらを適量配合または全量使用して、実施例 1 ~ 3 と比較例 1 ~ 3 を製造した。

なお、本例で使用した添加剤は以下の通りである。

潤滑性向上剤：リノール酸を主成分とするカルボン酸混合物

清浄剤：アルケニルコハク酸イミド混合物

低温流動性向上剤：エチレン-酢酸ビニル共重合体混合物